

航空機部品のアップサイクルを進めています



風防は客室窓！
タカタレムノス製
ウォールクロック



整備士の技術が
活かせるエンジン
ブレードキーホルダー



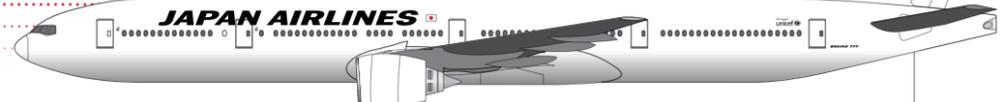
JALのロゴが
きらりと光る
チタンキーホルダー

UPCYCLE!



ライフベストを
アップサイクルした
ショルダーバッグ

カリモク家具と開発！
カーゴライニング
カードケース



シートベルトと
金具を活用して
キーホルダーに



客室窓の一部が
滑走路を模した
キーホルダーに



客室窓の素材に
機影を彫り込んだ
フォトフレーム



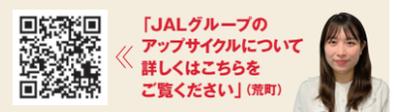
エンジン部品から
整備士が手作りで
安全確認！OK
サイン整備士



ポップアップイベントには
JAL整備士も参加！



上／横浜高島屋の一角を、JALのアップサイクル
グッズがジャック！下／秋田空港「空の日」イベ
ントでも、通称「整備のお仕事ガチャ」は大人気。



「JALグループの
アップサイクルについて
詳しくはこちらを
ご覧ください」(携帯)

整備士の思いを新たなカタチに

本日のご搭乗、誠にありがとうございます。機内を見回すと、シートカバーやシートベルト、キャビンインドゥ（客室窓）など、お馴染みのインテリアが目に入ってくるでしょう。座席下にはライフベスト（救命胴衣）も……。これらの航空機部品は、お客さまを安全に目的地まで運ぶという役目を果たした後は、廃棄または再資源化されるのが常でした。しかし、「これまで大切に整備を続けてきた部品をそのまま廃棄するのはもったいない」という整備士の思いから、JALグループでは数年前から廃材のアップサイクルを進めています。

アップサイクルとは、本来は廃棄される予定のものに手を加え、新たな価値を与えて再生させる手法を指します。第1弾として、定期交換により廃棄されるライフベストを再利用したポーチを製作し、2021年10月に発売。2022年には、退役したボーイング777型機を国内で初めて解体し、そのパーツのリサイクルとアップサイクルに取り組みました。賛同いただいたメーカー数社の協力の下、キャビンインドゥは時計やスツールなどのおしゃれなインテリアグッズに。そして、整備士のアイデアから、エンジンブレード、シートベルトなどのパーツも思いもよらないカタチに続々と生まれ変わっています。JALエンジンアリアリング事業推進部で、ア

今回のテーマに該当する目標



航空機整備への興味のきっかけに

廃棄される航空機部品に新たな役目を与え、廃棄物の削減にも寄与する取り組みの一環として、JALグループではこれまでにカプセルトイ「整備のお仕事」やホテルのコンセプトルームなども展開してきました。また、横浜高島屋では「空を飛んだそのあと」をテーマに、アップサイクル製品を販売するイベントを開催（今年は8月6日まで）。昨年から、一部の空港の「空の日」イベントで現地の整備士が商品を販売するなど、この取り組みを全国に広げています。

これらのイベントには整備士も参加し、普段は接する機会の少ないお客さまやお子さまと積極的にコミュニケーションを取るよう努めています。「イベントやアップサイクル製品をきっかけに、航空機整備という仕事にも興味を持っていただければと思います」と荒町。JALグループはこれからも、航空機部品の有効活用と廃棄削減に取り組み、持続可能な空の旅に貢献してまいります。

2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

